

■ 誰もが自慢し、誰もが誇れるまちをめざして

てしかがえこまち推進協議会は、「誰もが自慢し、誰もが誇れるまち」を目指し、観光を機軸としたまちづくりを進める団体です。

屈斜路湖や摩周湖をはじめ美しい景勝地を有する弟子屈町は、自然豊かな観光資源に恵まれた町です。訪れるお客様に魅力を感じていただくためには、まずはこの町に暮らす私たちひとりひとりが、町の魅力を見つめ直し、私たち自身が心豊かに暮らせるまちづくりを実現していくことが大切。町民誰もが「自慢し、誇れる」まちを目指し、さまざまな活動を行っています。

■ 持続可能な取り組みを

「えこまち」の「えこ」には、ecology（環境保全）とeconomy（経済）の二つの意味があります。観光を機軸に、農業、商業、工業などさまざまな分野が活気づき、町の中で人や物、お金が循環するような仕組みを考え、実践していきたいという思いが込められているのです。

弟子屈町では、人口の約7割が第3次産業に従事しています。多くの産業に波及効果の見込まれる観光業の活性化をテーマに活動することで、広く横のつながりを大切に、町一体となった取り組みにできるのではないかと考えています。

■ 「誰かが」ではなくて「自分が」

町全体のことを考えていく協議会には、さまざまな職種の人たちが居なくては。そんな考えから、構成する団体は観光協会、商工会、農協など町内の各団体の皆さん。そして実際の活動を行っていく8つの専門部会は、観光事業者はもちろん、会社員、主婦、農家の方、飲食店や役場職員などさまざまな立場の人が集まっています。（下段構成図参照）

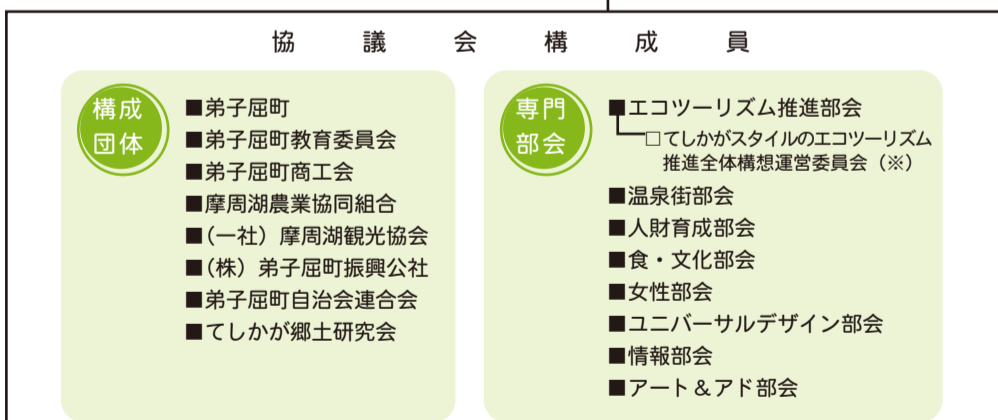
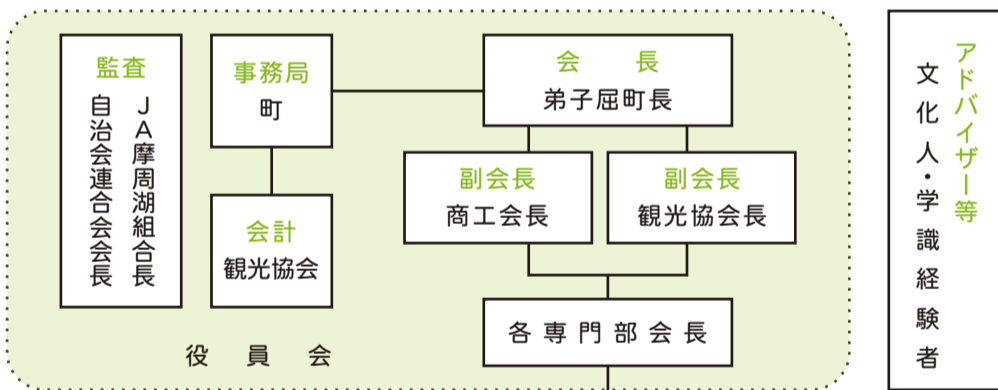
まちづくりに対するアイデアを生かせる場、それが「えこまち」。住民自らが責任を持って決断し、実行できる組織です。「誰かがやってくれる」から「自分がやろう」へ、「えこまち」という組織が出来たことで意識の変化が起こりました。



北海道 弟子屈町
TESHIKAGA HOKKAIDO

町の面積のおよそ65%が国立公園に含まれ、摩周湖と屈斜路湖の2つの湖を有する自然豊かな町、弟子屈町。夏と冬の気温差は60℃近くにもなりますが、厳しい自然が織り成す美しい風景と、温泉や森林などの豊かな資源、そしてここに生きる人々が弟子屈町の財産です。

てしかがえこまち推進協議会 構成図



※てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想運営委員会は、以下の機関の関係者により構成されています。
 (関係機関：屈斜路カルデラ自然ふれあい推進協議会、自然公園財団、阿寒国立公園川湯地域運営協会、屈斜路湖適正利用連絡協議会、NPO法人北海道ウォーキングネットワーク、釧路川流域ネットワーク、摩周温泉旅館組合、摩周の郷ペンション民宿等ネットワーク、弟子屈町森林組合、津別町、美幌町、大空町、小清水町 ■指導・助言・支援：環境省釧路自然環境事務所川湯自然保護官事務所、林野庁北海道森林管理局根釧西部森林管理署、釧路開発建設部釧路河川事務所、弟子屈消防署、弟子屈消防署川湯支署、弟子屈警察署、国土交通省釧路運輸支局、釧路総合振興局、玉川大学)

これまでの「えこまち」の取り組み

協議会の活動は、8つの専門部会それぞれの行う取り組みが主体になりますが、それ以外にも「えこまち」全体として取り組んできたことをご紹介します。（※各専門部会の活動については裏面をご参照ください）

＊ てしかが観光塾の開催

地域の観光振興を担う人材の育成を目的に、2008年より開催しているのが、てしかが観光塾。「北海道弟子屈から観光の未来を拓く」と題し、年ごとに異なるテーマを設定。テーマに沿った講義内容を全員で協議し、開催しています。観光塾ではおなじみの藻谷浩介さんの講演を始め、分かりやすく、実践につながるきっかけとなるような講座となるよう、工夫をこらしています。
<http://www.masyuko.or.jp/pc/juku.html>



3日間を通して、基調講演から選択講座までさまざまな講座を受講し、観光について学ぶだけでなく、全国からやってきた塾生たちと交流を深めます。

＊ エコツーリズムの推進

エコツーリズムとは、地域にある自然・文化・暮らしなどの特色を地域振興や環境保全に生かしていく仕組みのこと。「地域らしさ」を大切に旅をつくりだす理念とも言えます。エコツーリズムを推進していくことで、自然環境を守り、活用しながら地域振興をはかるとともに、旅行者にとっても地域とふれあい、学ぶ機会となることをめざしています。自然豊かな弟子屈町で、この町ならではのエコツーリズムを推進していくために、「えこまち」としてさまざまな取り組みを行っています。



○ エコツーリズム推進全体構想の認定

「エコツーリズム推進全体構想」とは、エコツーリズムを推進するために定める地域の指針のこと。定めた全体構想は国の認定を受けることができ、認定を受けると、地域資源の保護などを地域独自に実施していくことが可能となります。弟子屈町でも「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」をまとめ、2016年に環境省より認定を受け、北海道では最初の認定地域となりました。



○ 全国エコツーリズム大会 in てしかが開催

全体構想認定へ向けた取り組みを始め、さまざまな活動を行ってきたことが評価され、2011年度にはエコツーリズム協会の認定する「第7回エコツーリズム大賞・優秀賞」を受賞。翌2012年度には、全国から約300名が参加する、全国エコツーリズム大会を開催しました。



公式サイト



弟子屈ナビ

てしかがえこまち推進協議会 事務局

〒088-3211 北海道川上郡弟子屈町中央2丁目3番1号
 (弟子屈町役場 観光商工課内)

TEL 015-482-2940 (受付 8:45~17:30 土日祝を除く)
 FAX 015-482-5669 ecomachi@masyuko.or.jp

公式Webサイト <http://www.masyuko.or.jp/eco2/>
 ポータルサイト 弟子屈ナビ <http://www.masyuko.or.jp>

行政・観光関係団体・議会等の視察も受け入れております。
 詳しくは事務局までお問合せください。

エコツーリズムとは、地域にある自然・文化・暮らしなどの特色を地域振興や環境保全に活かしていく仕組みのこと。弟子屈らしいエコツーリズムのスタイルを確立し、次世代のためにも地域全体での取り組みとなるよう広めていくのが、エコツーリズム推進部会の部会目標です。

エコツーリズムによるまちづくりを

主な取り組み

- てしがスタイルのエコツーリズム推進全体構想に関する取り組み
 - ・ 運営委員会の主管
 - (モニタリングの実施、ツアー造成に向けた取り組み、広報活動等)
- ネイチャーガイドの質の向上と養成
 - ・ てしがが野外活動スキルアップ講習会の開催(レスキュー講習会、リスクマネージメント講座等)



講習会の内容は、保険や法律に関することや新しい技術に関する座学のほか、レスキュー訓練を行うこともあります。

エコツーリズム推進部会

部会長
藤原 仁

てしがが野外活動スキルアップ講習会では、座学や実技などを通し、ネイチャーガイドの質の向上をめざします。



「誰にでも使いやすいデザイン」を意味するユニバーサルデザイン。障がいや高齢などハンディを持った方にも旅を楽しんでいただけるように旅のサポートを務めるほか、バリアフリーマップの作成など、旅人にも住人にも暮らしよいまちづくりを目指し活動しています。

住んで・迎えて ユニバーサルなまちづくり

主な取り組み

- 高齢者や体の不自由な方の旅のお手伝い
 - ・ 町民による UD ツアーの企画 / 立案
 - ・ トラベルサポーターの養成
 - ・ バリアフリーマップの作成 / 配布
 - ・ 町内を歩くイベントサポート
- 町内外に対する UD 啓蒙活動の実施
 - ・ 講演会の開催
 - ・ 中高校への学びの場の提供

中学生によるユニバーサルデザイン勉強会の様子。福祉教育のカリキュラムに組み入れられ、毎年実施しています。



バリアフリーマップは道の駅等の他、主な観光施設で配布しています。



部会メンバーによる、視覚障害者のサポート風景。(写真は硫黄山で)



食を通して地域の価値を高めることを目標に活動する、食・文化部会。地域内の自給率を高め、「弟子屈ならではの」良さを伝えたいと、さまざまな印刷物を発行するほか、町民向けや事業者向けの講習会を開催しています。また地域の食文化の聞き書き活動なども行っています。

この町ならではの食を大切に

主な取り組み

- 地場産メニューのガイドブック作成
- 町民向けの地場産普及活動
 - ・ 講演会の実施
 - ・ 農業祭への出店(地場産野菜の天ぷら店)
 - ・ 「弟子屈産やさしい活用ガイド」発行
- 事業者向けの地場産普及活動
 - ・ 地場産レシピ講習会の実施
 - ・ 町内イベントでのメニュー考案
- 地域の食文化の「聞き書き」

地場産メニューのある飲食店ガイド「Made in てしがが」は、Vol.1～3まで、毎年改訂を加えながら増刷し、道の駅等で配布しています。



地域の食文化を継承するための「聞き書き」も大切な活動。写真はカボチャ汁粉!

事業者向けのレシピ講習会は、生産者の方の講演と合わせて、プロの料理人に学ぶ料理教室と試食会があり、毎年好評です。



食・文化部会

部会長
木名瀬佐奈枝

部会目標は「We love Teshikaga! → 100%」 地域に暮らす人は、マチにとっての財産。だから人材ではなく、人財。町民ひとりひとりが、まちを自慢できる「何か」を持てるように、さまざまな取り組みを通し、町の良さを再認識する事業を行っています。

弟子屈大好き! な人を増やしたい

主な取り組み

- 町民が地元の価値を再認識できる取り組み
 - ・ ファシリテーション講座の開講
 - ・ 道外の学生の合宿誘致(及び交流)
- 町内の子ども達がふるさとの良さをを知る
 - ・ 弟子屈高校との連携事業(学生の英語による解説ビデオの放映、バスツアー)
 - ・ えこまちジュニアガイド養成事業
- 地域の名人達人を取材し、紹介!



摩周湖の展望台では、英語の実践の場として外国人観光客にも積極的に話かけます。

弟子屈高校の学生による周遊バス「弟子屈えこバス」の車内ガイド。観光客の方へ、自分達の言葉で町内の見どころを紹介しました。



人財育成部会

部会長
萩原寛暢

女性ならではの知恵と行動力をまちづくりにつなげたい! そんな思いで活動する女性部会。観光客の人に喜んでもらえる「外に向けたプラン」と、町の人に楽しんでもらえる「内に向けたプラン」のどちらも大切にしながら、地域に根ざした丁寧な活動を心がけています。

女性ならではの目線を活かして

主な取り組み

- 地域の宝さがし!
 - ・ 弟子屈の「きらりスポット」を発信
 - ・ 写真の撮り方講習会の開催
 - ・ 地域の歴史を残す「昔語り」
- ツアー作り
 - ・ 女性ならではの感性を生かしたツアーの企画
 - ・ 「街コン」の開催(※他団体との連携事業)
- 女性の交流を増やす取り組み(物々交換会)



みんなが弟子屈の情報をステキに発信できるようにねばと、地元で活躍する写真家を講師に写真講習会も開催しました。

地元のステキな場所をお伝えしたくて手作りの「いいとこまっぷ」は、Web 配信も予定しています!



女性部会

部会長
高梨ひとみ

アート(芸術)とアド(広告)の融合により、まちを活性化させたい! と活動する A&A 部会。「てしがが極寒 ART フェスティバル」の開催や、町内のシャッターや壁にアート作品を配する「劇的てしがが ART バラバラ計画」など、前衛的な手法と発想は町内外に常に新鮮な驚きと発見を運んでいます。

芸術と発信でまちを元気に

主な取り組み

- てしがが極寒 ART フェスティバル開催(芸術作品の制作と展示 / 音楽・演劇公演等の実施)
- てしがが極寒 ART コンテストの実施
- 劇的てしがが ART バラバラ計画(町内のシャッターや壁にアート作品を)
- 巨大紙芝居の作成 / 上映(子ども達や福祉施設の方とアーティストが共同で制作)

凍った湖の上にアート作品が並び、「てしがが極寒 ART フェスティバル」のひとつ。



町内のホテルの壁に描かれたアート作品。実際にアーティストさんに足を運んでいただいて制作いただいたものです。

A&A 部会

部会長
今井善昭

弟子屈町の観光ポータルサイト「弟子屈なび」や、同サイトの Facebook ページの運営など、町内外へ向けた情報発信を担っています。コンセプトは「生の弟子屈情報をえこまちで発信する!」。より分かりやすく効果的な情報発信について学ぶための「情報セミナー」なども開催しています。

旬の弟子屈情報を町内外へ発信

主な取り組み

- ポータルサイト「弟子屈なび」の運営
- 情報セミナーの開催
- Facebook ページによる情報発信
- QR カードの発行・配布(スマホ等で読み込むことで町内の観光スポットの動画を再生するカード)

弟子屈町のポータルサイト「弟子屈なび」は、情報部会が運営しています。地域の観光情報が満載です!



QR カードは名刺サイズ。いろいろな種類があり、集めるのも楽しいですよ!



旬の情報発信について学ぶ「情報セミナー」も毎年開催しています。

情報部会

部会長
行木衆児

温泉資源の豊富な弟子屈町。地域の環境保全や、温泉街の魅力を向上させることを目的に活動しています。年に2回の温泉川清掃や植樹活動などの活動を続けながら、未来の温泉街をイメージするランドデザインの立案と実現をめざします。

温泉街の活性化をめざす

主な取り組み

- 温泉街をきれいにする活動
 - ・ 温泉川の清掃(年に2回)
 - ・ 植樹活動
- おもてなし力の向上
 - ・ 地域のさまざまな方を講師に弟子屈を学ぶ「つなげよう弟子屈」講座を開講(不定期)
- ONSEN ガストロノミーの推進
- 未来の温泉街の姿についての検討



「つなげよう弟子屈」のひとつ。町内の林業従事者の方を講師に、森について学んでいます。

川湯温泉街を流れる「温泉川」の清掃風景。単に掃除をするだけでなく、将来ビジョンを考える大切なひとときです。



温泉街部会

部会長
榎本竜太郎